

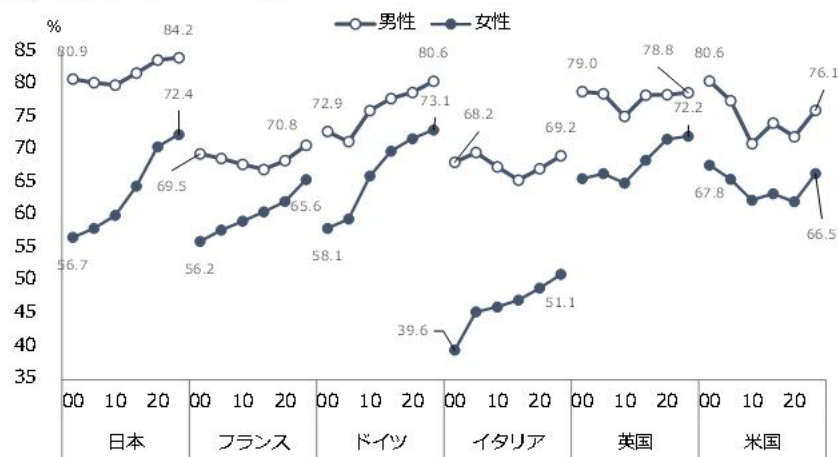
近年の労働市場の環境変化と企業経営の展望

リクルートワークス研究所 研究員・アナリスト 坂本貴志氏

労働参加率は世界最高水準に

労働参加率の話題に移ります。

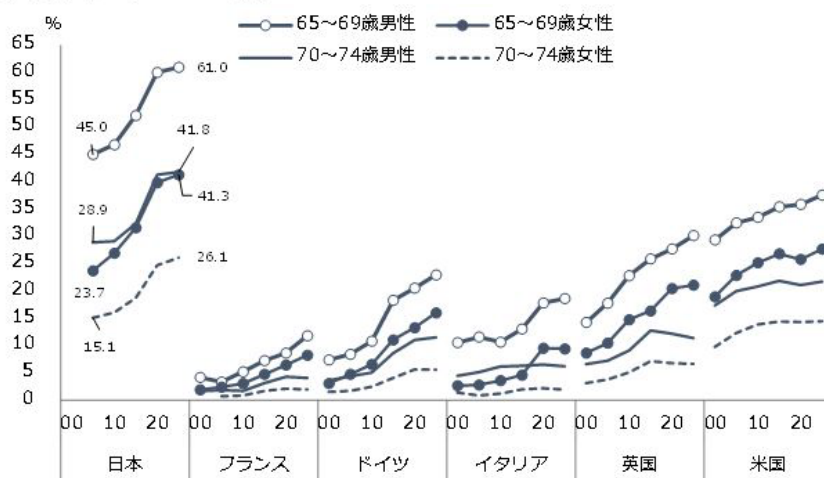
図表.就業率の推移 (15~64歳)



出典：OECD.stat

上図は男性と女性とで就業率の推移を各国で比較したものです。女性の就業率に着目しますと、この10年で日本の就業率が非常に大きく上昇しているのが見て取れます。グラフの傾きで見ますと、一番大きい。ドイツも同じように伸びていますが、主要国の中で女性就業が一番進んだのが日本です。足元の72.4%という日本の数値は、ドイツに次ぐ高水準になっています。

図表.就業率の推移 (65~74歳)



出典：OECD.stat

多くの方の中には、日本はまだまだ女性が働かない国なんだというイメージがあると思いますが、もうそれはかなり時代遅れの認識です。日本は主要先進国の中でも最も女性が働いている国だと思います。一

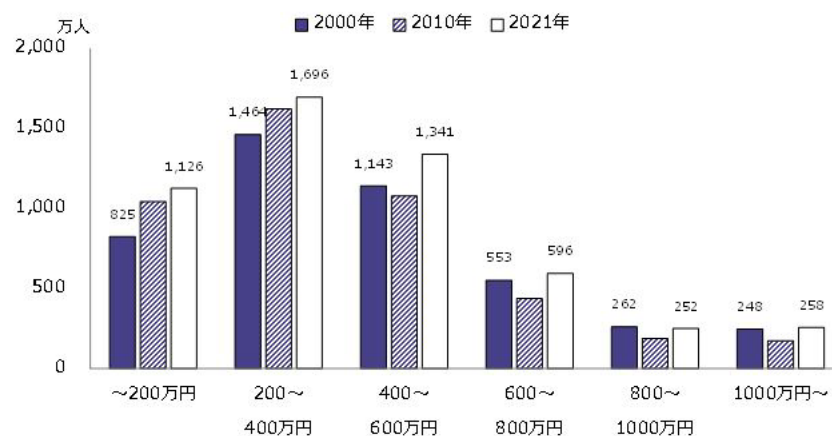
方、日本の男性は就業率が 84.2%と元々突出して高いので、そういう意味では、日本は男女共に非常によく働く国なのです。

逆に日本がこれから就業率を伸ばせるかと言いますと、その余地は少ないのではないかと思います。女性に男性と同等の就業率を望んだ場合に、やはり女性には子育て等がありますから、完全に男性と同等の就業率にはならないと思います。ここ 10 年で女性の就業率がここまで伸びてきた訳ですが、それは企業から見ますと労働力が幾らでも確保できる環境にあったという訳ですから、嬉しい現象が続いていたということです。企業は労働力がいくらでも手に入るので、賃金を低く抑えられてきたという側面があったのですが、現状ではそういった状況が変わりつつあるというのがわかります。

高齢者の就業率も日本は断トツで高いです。高齢者の就業率はまだまだ伸びると思いますし、高齢者の方々にももっともっと活躍してほしいと思いますが、ここに関しても永遠に伸び続ける訳ではないですから、長い目で見ますと天井が見えてくるのかなと思います。

下図は国税庁の調査から年収の分布を見たものですが、低所得者が増えているのがわかります。

図表.給与所得者の年収分布

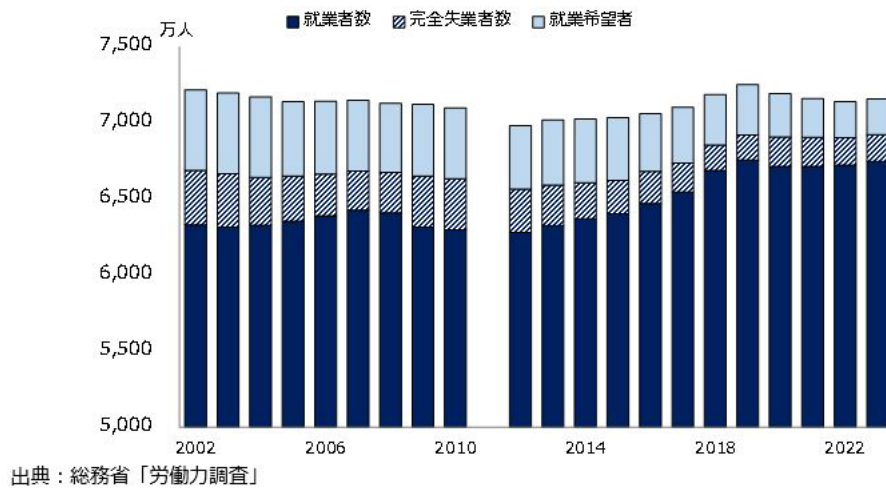


出典：国税庁「民間給与実態統計調査」

これはなぜかという、女性や高齢者の方で短い時間働くという人が増えているので、その結果低所得の方が増えているということです。先ほども説明しましたが、時給は足元で伸びていますので、この図は女性や高齢者の労働参加者が増えたために低所得者が増えているということを示していると思います。

これまで低賃金で働く人が増えてきたので、それが賃金の上昇圧力を抑制してきたという側面があったのだと思います。しかし、そういった女性や高齢者の労働参加の伸びも少しずつ天井になってきていますので、この状況もそろそろ終わってくるのではと思います。

図表.就業者数と潜在労働力



上図は労働力調査から、就業希望者(就業を希望しているけれども就業できていない人)の数という潜在労働力の推移を示したグラフです。

過去は就業希望者や失業者は多かったのですが、どんどん少なくなっています。これを見ると、2000年代以降労働力のプールを食いつくしてきて、その代わり就業者数が増えていったということがわかります。働きたくても働けない人がどんどん少なくなっていますから、人手不足の中で人を取ろうと思っても人を取れないということが恒常化していくのだろうと思います。